

石川町の全小学生750人

いわき久之浜に植栽へ



石川町の児童が育てるコナラのドングリを管理する仲田社長

石川町の児童が育てるのはコナラのドングリ。昨年秋に久之浜の住民が集め、二月下旬に町に寄せた。町内の仲田種苗園の仲田茂司社長(53)が管理しており、四月以降に町内の小学校八校に配る。託

員分をそろえる。各小学校は久之浜から講師を招き震災による津波や避難の状況を話してもらうなど、ド

仲田社長(53)

が管理してお

り、四月以降に町内の

和憲町教育長(61)

は

「海から離れた地域に

されたドングリは約三

百個のため、同社がい

う。震災の記憶の風化

を止めることにも役立

つ」と語る。

一方、久之浜では久

之浜一小の六年生二十

六人と久之浜二小の全

校児童二十九人が、ド

ングリを既に植えた。

また、久之浜一小の児

童は昨年六月から七月

にかけて防災緑地の在

り方を考える住民のワ

ークショップに参加

しており、学校関係者は「命の重さや絆を育む

大切さを感じてほしい」と願っている。

復興へドングリの絆

その後、両市町の住民が行き来を重ね、平

成二十一年に始まっ

た交流は震災を機に

より密接になった。木

ちづくりに児童が積極

的に関わることができ

る。苗が大きく育ち町

どもが大きくなっ

た時、自分たちが植え

た苗が育ったのを見れ

ば交流が続いていく

んだ。

久之浜一小の松本光司校長(55)は「未来のまちづくりに児童が積極的に関わることができることを守るようになってほしい」と話している。

「と話す。

石川町と久之浜の交

流を知り、ドングリの

芳秀会長(72)は、子ど

供を仲介した県土

木部の長谷川潔参事

(51)は「互いの交流が

紡いでくれることを期

待している。

石川町民は震災の直

い」と語る。

※ 防災緑地 津波から市街地を守るために県が10カ所で整備している。農地を守る防災林と違い、住民憩いの場となる地域振興の機能、景観を整える役割も担う。久之浜地区の防災緑地は11・2haの予定。海岸に近い場所には潮風に強いクロマツなど、内陸部には広葉樹を植える。いわき市の薄磯、豊間西地区の防災緑地には、神奈川県藤沢市の子どもたちが育てる苗木を植える予定で、県は他の防災緑地でも同様の植栽事業を検討している。

石川町の全小学生約七百五十人が東日本大震災からの復興を願ってドングリを育て、来年秋以降に児童代表がいわき市久之浜地区の防災緑地に苗木を植栽する。震災以降、同町中谷地区と久之浜の住民が交流の絆を育んで

きたことが縁で、久之浜からドングリが届いた。久之浜の子どもたちも同じドングリを育てている。震災の記憶を残す防災教育を兼ねており、学校関係者は「命の重さや絆を育む大切さを感じてほしい」と願っている。

童は昨年六月から七月にかけて防災緑地の在り方を考える住民のワークショップに参加し、防災力向上に向けた知恵を絞ってきた。一方、内陸部には広葉樹を植える。いわき市の薄磯、豊間西地区の防災緑地には、神奈川県藤沢市の子どもたちが育てる苗木を植える予定で、県は他の防災緑地でも同様の植栽事業を検討している。